



棚田が結ぶ、ふるさとの絆 ～みんなで創ろう！百笑の里～

【開催趣旨】先人が営々と働き積み上げた棚田は、壮大な景観と恵み豊かな自然を有し、地域の歴史が刻まれた未来へ継ぐべき宝物です。しかし、棚田を取り巻く環境は変化していき、棚田を中心とした恵まれた環境は崩壊しつつあります。松崎町石部の棚田も、こうした環境から一度原野と化しましたが、地域住民の手で復田され、農作業を通じた交流による保全活動でふたたび輝きを取り戻しました。地域住民の努力で保全されている全国の棚田を今の私たちが守り続け、普遍的価値のある宝として、将来世代へ安心して引き継いでいくために、全国の棚田関係者と意見交換や交流を図り、一致協力して国民総意の保全意識を高めるべく全国棚田(千枚田)サミットとを開催します。

第十六回全国棚田サミットが平成二十二年十月二十二日・二十三日、静岡県松崎町「石部の棚田」で開催。四谷の千枚田から保存会、連谷お助け隊十六名が参加します。

電柱移転

四谷の千枚田は「第十一回全国棚田サミット開催」、平成二十一年度田園自然再生活動コンクール農林水産大臣賞受賞」、「COP10 協賛事業招致」、情報誌の「四谷の千枚田だより」、「パンフレット」「四谷の千枚田」の発行、等々、目に見えた活動も大きく、知名度は全国的(国際的)となった。特にCOP10開催期間中、東海農政局主催エクスカージョン参加の世界各国の方々やCOP9開催国のドイツ国会議員が千枚田を訪れるなど多忙を極める。

千枚田を初めて訪れる方々は登りくねった県道を走行。突如、鞍掛山麓南斜面に広がる棚田のロケーションに圧巻、感動をおぼえる。その、生物多様性に富んだ素晴らしい光景に棚田を縦断する電柱がしばしば話題になる。

冒頭にも述べたように「四谷の千枚田」の知名度は高まる一方で、本年も既に一万五千人は訪れている。(特に本年は関東圏のバス会社がツアーを組み、頻りに訪れている)

その、訪れる人たちから「電柱がなければ」の声が多い、また、農業の支障にもなる。

このような住民の声を県行政にお願いした結果、農耕に支障のある物件移転として中部電力、NTTのご厚意でCOP10開催までに天王橋までの県道下の電柱はすべて移転して頂くことになり、現在、移転工事が急ピッチで進んでいる。



案山子

九月二日、連谷小学校児童九名は今年も学校田に案山子を立った。

案山子を立ったおかげか、スズメは寄ってこないがカメラマンが毎日、大勢寄ってくる。

稲刈りは二十八日に行われる。



現地研修

九月九日、東海農政局土地改良技術事務所技術指導官の技術力向上の一貫で実施する現地研修会に東海農政局のCOP10 エクスカーション会場になる四谷の千枚田が選定され、全国から参加した十四名の若手技術官に「千枚田を守ることの大切さ、苦労」。また、「ふるさと水と

土ふれあい事業で整備された作業道(景観道)やふれあい広場などを活用。農作業の軽減、都市交流など千枚田を核にした村づくりまで発展。村が活き返った」等々、小山舜二が現地を案内しながら語った。

稲刈り

① 豊橋調理製菓専門学校三十八名は田植え、生育調査、田の草取りに続き九月九日、千枚田の実習田で稲刈りを実施した。

「あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業」の一環として棚田全体がビオトープと位置づけ、稲の生長調査、田んぼや小沢の生きものなど小山舜二を講師に生物多様性を学んだ。



昼食は地域特産の五平餅づくりに地元のおばさんの指導で挑戦、まあまあの出来映えであった。

また、田んぼで捕ったマムシを五平餅の炭火で焼いて食べたのも、よい思い出づくりであった。

② 九月十二日、棚田ツーリズムのメンバー四家族十三名(代表 渡辺さん)は残暑厳しい棚田の稲刈りに心地よい汗を流した。

このメンバーは昨年まで続いた県主催の三河の山里ツーリズムの参加者で、四谷の千枚田に魅せられた親子でもある。メンバーは田植え、田の草取り、稲刈りなど、自然を通じた千枚田の応援団でもある。



視察

九月十六日、衆議院調査局環境調査室主席調査員 花房久美課長さん一行三名が四谷の千枚田を訪れます。(応対 小山舜二保存会長)

ご来県日程：九月十五日

- ① 愛知県庁【COP10 概要説明聴取】
- ② 愛・地球博記念公園視察
- ③ 名古屋国際会議場視察
- ④ 藤前干潟視察

九月十六日 四谷の千枚田視察

景観環境整備

九月五日に予定されていた景観環境整備は本年の異常な暑さで熱中症患者でも出たら大変と、十月三日に変更、実施する。

AZ社ボランティア活動

十月八日、恒例となったアストラゼネカ社員によるボランティア活動が実施される。

講師

十月十四日、ふるさと保全ネットワーク(全国土地改良事業団体連合会)主催 第十六回ふるさと水と土基金全国研修会が国立オリンピック記念青少年センター(東京都)で開催。講師(90分講座)として小山舜二が招かれる。

行 平成二十二年九月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二